

事務事業名		女性セミナー事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																									
政策体系	政策名	016 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間	予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 04 04																								
	施策名	215 生涯学習の推進																												
	基本事業名	012 市民の学習活動への支援																												
根拠法令					☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和60 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入																									
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課																												
	係 名	中央公民館	電話 内線	26-3166 432																										
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・女性に多様な学習機会を提供し、資質・教養の向上に資する事業。 ・中央開催で、講座を3回程度行う。 ・主な業務は、学習計画立案、講師依頼、開級式・閉級式の開催、謝金等の支払いなどを行う。 ・事業費は、講師謝金・旅費、事務用品代などに支出される。						全体計画 (期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="6">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費 財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A) + (B)</td> <td>0</td> </tr> </table>	総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計 (A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計 (B)	0	トータルコスト(A) + (B)		0
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金																												
		都道府県支出金																												
		地方債																												
		その他																												
		一般財源																												
	事業費計 (A)	0																												
人件費	正規職員従事人数																													
	延べ業務時間																													
	人件費計 (B)	0																												
トータルコスト(A) + (B)		0																												

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)																									
手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 学習計画の立案、講師依頼、講座の開催など。講座の開設は、9月から12月に4回実施。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ様に実施する予定だったが、東日本大震災による事業の見直しで全て休止。 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市内在住の18歳以上の女性 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) ・学習活動を通じて、できるだけ多くの方に、女性として必要な教養を自発的に身につけてもらう。 結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・学習意欲の啓発・向上がなされている。 ・主体的な学習活動が行われている。		<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 運営委員会開催回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>イ 講座開催回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 4月末の対象地域の女性人口</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ 実講座参加者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 次回も参加したいと感じた参加者の割合 (どちらとも言えないを含む)</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>シ はじめて参加した参加者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>ス のべ講座参加者数</td> <td>人</td> </tr> </table>		名称	単位	ア 運営委員会開催回数	回	イ 講座開催回数	回	ウ		名称	単位	カ 4月末の対象地域の女性人口	人	キ 実講座参加者数	人	ク		名称	単位	サ 次回も参加したいと感じた参加者の割合 (どちらとも言えないを含む)	%	シ はじめて参加した参加者数	人	ス のべ講座参加者数	人
名称	単位																										
ア 運営委員会開催回数	回																										
イ 講座開催回数	回																										
ウ																											
名称	単位																										
カ 4月末の対象地域の女性人口	人																										
キ 実講座参加者数	人																										
ク																											
名称	単位																										
サ 次回も参加したいと感じた参加者の割合 (どちらとも言えないを含む)	%																										
シ はじめて参加した参加者数	人																										
ス のべ講座参加者数	人																										

(2) 総事業費・指標等の推移				年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	187	191	175	163	89	82
	事業費計 (A)		千 円	187	191	175	163	89	82	
	人件費	正規職員従事人数	人	5	6	5	6	3	3	
		延べ業務時間	時 間	60	50	40	130	30	20	
		人件費計 (B)	千 円	240	200	160	520	120	80	
		トータルコスト(A) + (B)		千 円	427	391	335	683	209	162
活動指標			ア	回	5	6	5	6	0	0
			イ	回	24	30	21	25	3	4
			ウ							
対象指標			カ	人	13280	15850	14340	14090	18758	18515
			キ	人	302	451	297	392	42	39
			ク							
成果指標			サ	%	99.5	99.0	97.2	97.0	94.8	92.8
			シ	人	48	55	40	50	35	33
			ス	人	888	1153	733	887	76	63

事務事業ID	0865	事務事業名	女性セミナー事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

家庭等に入り子育てなどで学習機会に恵まれない女性等を対象に、多様な学習機会を提供するため昭和60年度より開始した。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

内容も現代的に変化しつつあり、ヨガやマッサージなど健康に関する講座について学習要望が増加しつつある。受講対象者数は、平成21年度より対象地区の指定を行わず、市内全域を対象としたことから、20年度の数値より大きく増加している。事業の内容は、平成20年度までは地区指定を行い、学習計画を運営委員会で立案し、ガーデニング、礼儀作法、介護、料理など講座の開催を行ってきた。一方、市民・くらしの講座と統合すべきとの意見も、市立公民館運営審議会等の場で議論された。それへの反対意見として、「実施地域の細分化(現在は地区公民館単位)により、よりきめ細かい対象者に学習の機会が提供できるのではないか。」との意見もあったが、21年度より統合した。23年度は東日本大震災による事業の見直しで全て休止した。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

参加者からは、毎回好評を得ており、継続して実施して欲しいと要望を受けている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 女性の教養の向上、社会参画の推進などに結びついている。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 女性同士の学習の中で、社会的な問題等について学習を進めることにより、心豊かな生活や、豊かな人間性を養うことを目的としているため、女性への学習支援は必要である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 女性のみを対象とした学習機会の提供は他に実施していないため。ただし、講師・会場の都合により、講座については、人数の制限を設けざるを得ない。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 地区公民館単位など実施地域の細分化により、よりきめ細かい対象者に学習の機会が提供できるが、実現は困難である。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 女性への学習機会の提供が減少することにより、継続実施の要望に応えることが出来なくなる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 男女共同参画が進む中で、女性のみを対象とした学習機会の提供は他に実施していない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 必要最低限の事業費(講師謝金)で実施している状況にある。また、講師謝金の極端な引き下げは、質の低下につながる。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 社会教育指導員が主担当で実施しているため。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 教材費などについては受益者の負担となっており、一般財源と受益者負担との配分は公平である。

事務事業ID	0865	事務事業名	女性セミナー事業
--------	------	-------	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 女性の視点による日常生活等における学習機会の提供について、今後も引き続き実施していく。幅広い年代層に受け入れられ、かつ若い女性にも興味を抱かせる魅力ある講座を実施した。受講生募集については、第1回講座が募集開始1週間ほどで定員となり、受講を断った人もいた。講座の終了時間が予定より遅くなる場合があった。講師とのより詳細な打ち合わせが必要であった。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☒ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 新規事業である復興支援文化活動事業と実施内容が類似するため、事業を休止とする。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	生涯学習課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務事業執行がなされている。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり														
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☒ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 新規事業である復興支援文化活動事業と実施内容が類似するため、事業を休止とする。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持			×																						
	低下		×	×																						

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
